●　上山高原自然再生事業の概要

1　基本方針

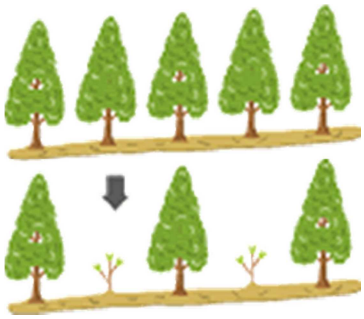
上山高原の自然再生事業は、人と自然が良好な関係を保っていたと考えられる昭和30年代頃の状況を目標に、スギ等の人工林をブナやミズナラ等の広葉樹林へ戻し、遷移が進み灌木が侵入している草原をススキ草原へと転換していくことで、森と草原双方のバランスを図りながら、上山高原の特徴ある多様な自然を再生していくことを基本方針としており、次の大きな二つの柱を中心に取り組んでいます。

①　ススキ草原の復元

多様な動植物が生息・生育し、イヌワシが生息できる草原をめざします。

②　ブナ林等落葉広葉樹林の復元

ツキノワグマが生息する豊かな落葉広葉樹林をめざします。



◆◆◆これらによる効果◆◆◆

★　生物多様性を高める効果

これらの自然再生活動により、絶滅が危惧されているイヌワシやツキノワグマ等の生息基盤の安定化や森林性だけでなく草原性の動植物の生息・生育など、「生物多様性」を維持・向上させるという効果が期待されます。

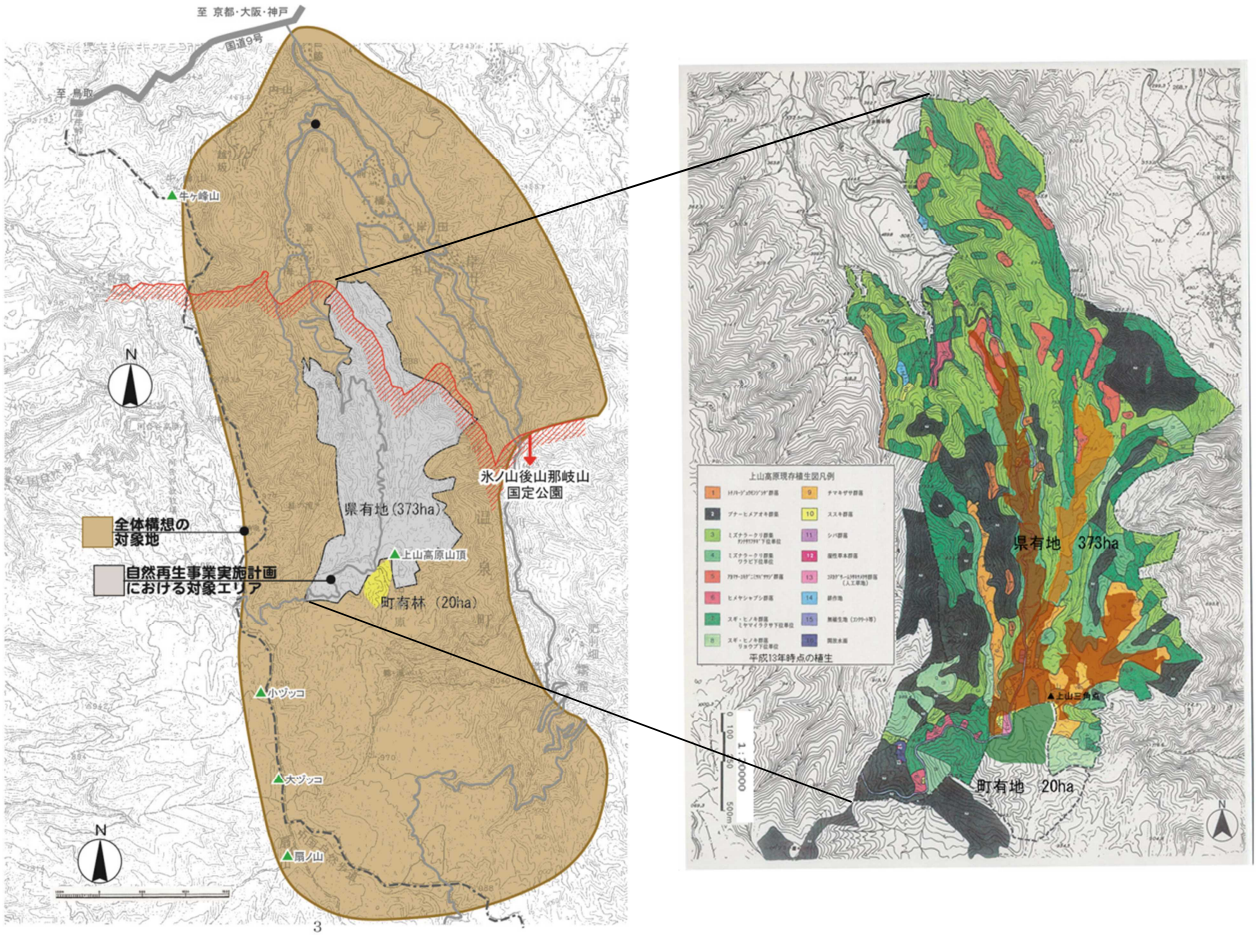
☆　地域振興の効果

ススキ草原やブナ林が作り出す美しい自然景観が地域資源となり、地域独自のアイデンティティを醸成し、これら地域資源を介して人々が訪れ、交流が広がるといった「地域振興」の効果も期待されます。

2　自然再生事業対象区域

「上山高原自然再生事業実施計画」（平成24年１月作成）に基づき、上山高原エコミュージアムの圏域（上山高原及びその周辺集落、扇ノ山等の国有林等を含む約3,550ha）のうち、県有地（373ha）及び町有地（約20ha）を事業対象区域とします。

■全体構想対象地域と自然再生事業実施地域　■事業実施計画対象地



3　事業実施期間

「上山高原エコミュージアム基本計画」（H14.3作成）及び「上山高原自然再生全体構想」（H22.3作成）に基づき、次の図のとおり事業を進めます。

■事業対象期間

	H14～17	H18～26	H27～31	H31～42
	試行・実証期間	本格実施	本格実施	本格実施
ススキ草原の復元	●新規ササ、灌木の刈取 ●多様な保全手法実験（火入れ・牛放牧・手刈り）とモニタリング ●モニタリング結果を踏まえて、ベストミックスな管理手法の検討		●新規ササ、灌木刈取 ●有効な手法による維持管理とモニタリング	●有効な手法による維持管理とモニタリング
ブナを中心とした落葉広葉樹林の復元	●スギ人工林間伐、針広混交林化の実施 ●ブナの植樹方法のモニタリング（スギ林のパッチ状、列状間伐） ●持続的な管理や活用方法の検討		●スギ人工林間伐、針広混交林化の実施とモニタリング ●持続的な管理や活用方法の検討	

４　自然再生事業の実施

平成14年度から県有地内及び町有林において「ススキ草原の再生のためのササや灌木の刈り取り」および「スギ人工林のブナの森を主体とする落葉林化」を実施するとともに、モニタリング調査を実施してきました。

その後、順次「火入れ」や「牛放牧」を試験的に開始し、活動開始時3ha程度であったススキ草原は、平成26年度までに34.4haにまで復元しました。また、ブナの森を主体とする落葉広葉樹林については、約16haのスギ人工林を間伐し、約6,800本のブナ苗を植栽しました。

モニタリングの結果、草原への火入れがススキ草原維持に大きく貢献していること、活動開始以降ススキ草原において草本種の増加が見られること、植物やクモ類などの希少種が数カ所で見られることなど、一定の成果が見られます。

一方、草本種数の頭打ち、牛の嗜好性による植生の偏り、牛の踏圧過剰や手刈り地でのマルチングによるススキの生育不良などの課題があります。

ブナ植林地においては、パッチ状間伐地、列状間伐地ともにブナ苗が順調に成長しています。

（１）ススキ草原の復元

これまでに復元された既存ススキ草原（34.4ha）について、火入れ、牛放牧、手刈りの手法を用いて維持管理を行います。その際、牛踏圧や刈り取った草の処理などに注意する必要があります。また、元々ススキ草原であった灌木原約10haを新規に皆伐し、ススキ草原に復元します。

■実施計画図

火入れ作業

牛放牧

皆伐作業

新規皆伐

（2）ブナ等落葉広葉樹混交林の復元

スギ人工林について、間伐を実施し、針広混交林化するとともに、ブナ苗を植栽します。また、ブナ苗を植栽した場所の下草刈りなど維持管理を実施します。

スギ人工林の列状間伐地

イベントでのブナ苗植樹作業

（3）モニタリングの実施

種の出現数や草原生・森林性の別、イヌワシの生息状況など自然再生状況を確認し、今後の自然再生事業に活かすため、毎年、次の調査を実施します。

- 植生調査、植物相調査、フロラ調査
- クモ類・チョウ、バッタなどの昆虫類を指標にした調査
- 哺乳類等（ノウサギ、ニホンジカ等）生息状況調査
- イヌワシ生息状況調査
- 間伐後のブナの定着率調査、管理安定期のブナ林の生態調査

植生調査

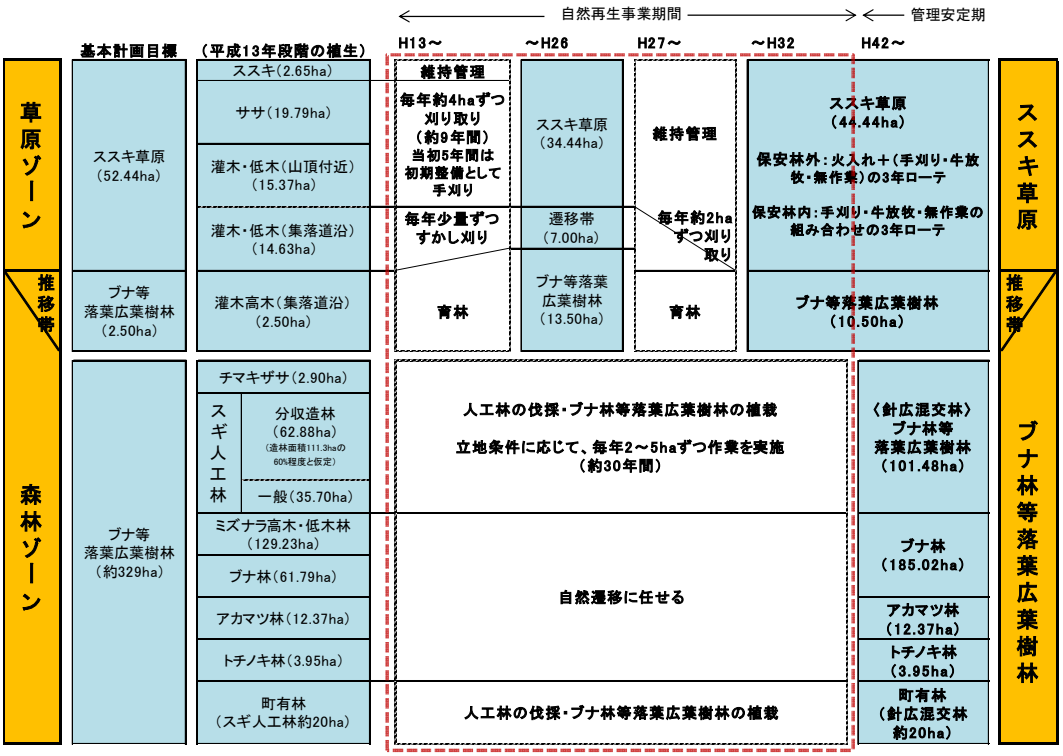
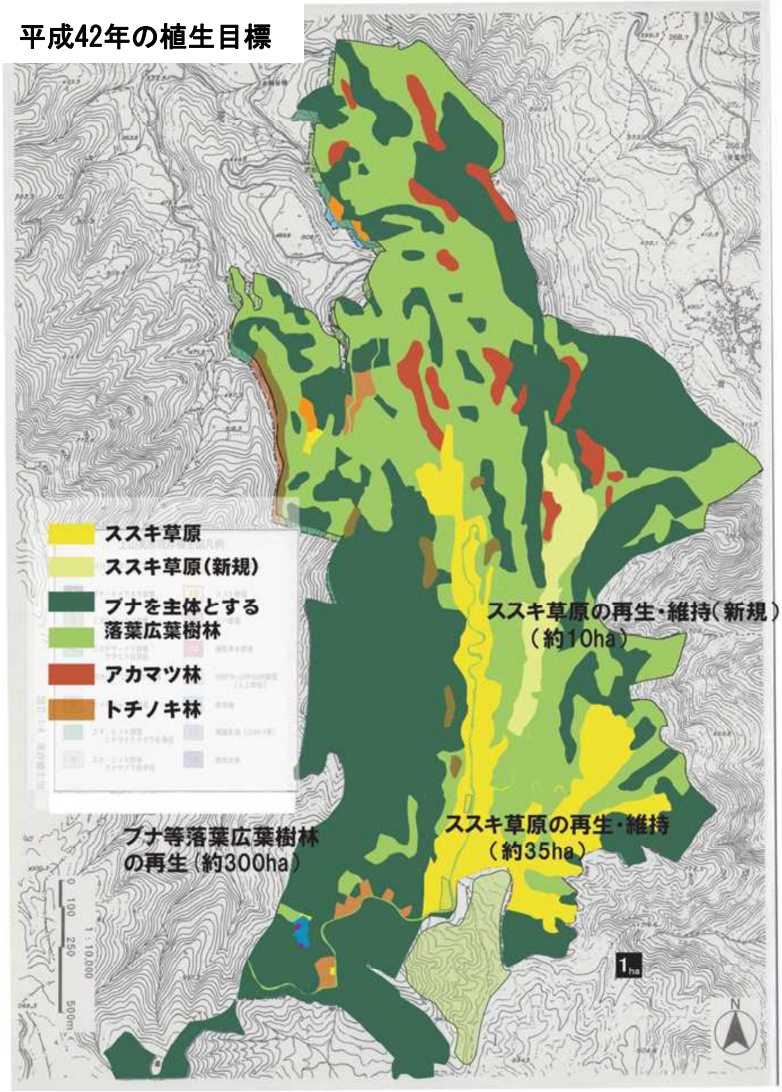
モニタリング報告会

5　今後の事業内容と将来の植生目標（平成42年時点の目標）

草原ゾーンについては、既存34.4haと新規10haを合わせた44.4haのススキ草原の維持管理を継続します。また、森林ゾーンについては、スギ人工林の針広混交林化を平成41年度まで続けます。

平成42年時点で、ススキ草原44.4ha、ブナ林等落葉広葉樹林約339ha（推移帯含む）を目指します。

■植生遷移目標（平成13年～平成42年）



平成42年の植生目標